
令和5年度 事業報告書・概要版

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)



令和6年6月
地方独立行政法人 神戸市民病院機構

市民病院機構・各病院位置図



※ 本文のグラフや表における「H」は平成、「R」は令和の元号を表します

神戸市民病院機構について

◆神戸市民病院機構の目的

- ✓ 地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全に提供し、もって市民の信頼に応え、市民の生命と健康を守ることを目的とする。

◆概要

項目	
法人名	地方独立行政法人 神戸市民病院機構
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目2番地
設立年月日	平成21年4月1日
役員数	14名（令和6年3月31日時点）
職員数	3,585名（令和6年3月31日時点）

◆役員名簿

（令和6年3月31日時点）

役職	氏名	備考
理事長	常勤 橋本 信夫	
理事	常勤 木原 康樹	中央市民病院長
理事	常勤 中村 一郎	西市民病院長
理事	常勤 京極 高久	西神戸医療センター院長
理事	常勤 栗本 康夫	神戸アイセンター病院長
理事	常勤 志水 達也	法人本部長
理事	非常勤 植村 武雄	小泉製麻株式会社会長
理事	非常勤 千原 和夫	兵庫県立加古川医療センター 名誉院長
理事	非常勤 小西 郁生	京都医療センター名誉院長
理事	非常勤 江川 幸二	神戸市看護大学長
理事	非常勤 村上 雅義	神戸医療産業都市推進機構専務理事
監事	非常勤 藤原 正廣	弁護士（京町法律事務所）
監事	非常勤 岡村 修	公認会計士・税理士 （岡村修公認会計士税理士事務所）

神戸市立医療センター中央市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：768床

一般病床：750床（うち、ICU・CCU：22床/SCU：12床/HCU：28床）

感染症：10床

MPU：8床

- ✓ 救命救急センターとして24時間365日体制での救急医療を提供し、脳卒中や急性心筋梗塞、交通外傷等、生命に関わるような重篤な患者を中心に、幅広く患者を受入れる。
- ✓ 地域医療支援病院として地域医療連携の推進に取り組むとともに、高度医療機器の導入等を必要に応じて行い、神戸市全域の基幹病院として専門性の高い高度な医療の提供を行う。



地域医療
支援病院

救命救急センター
指定病院

病院機能評価
認定施設

災害拠点病院

地域がん診療
連携拠点病院

第一種感染症
指定医療機関

総合周産期母子
医療センター

◆基本理念

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供する。

◆基本方針

- ①患者の生命の尊厳と人権を尊重する
- ②十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供する
- ③基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組む
- ④24時間体制での救急医療を実践する
- ⑤医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図る
- ⑥地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進める

◆診療科（令和6年3月31日時点）

循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科・新生児科、皮膚科、外科、移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急部、総合内科

神戸市立医療センター西市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：358床

一般病床：358床（うち、HCU：7床）

- ✓ 市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、高水準の標準的医療を提供するとともに、内科系・外科系の24時間365日の救急医療体制を継続し、地域住民が安心して暮らせる救急医療の提供を行う。
- ✓ 地域医療支援病院として、専門性の高い医療を提供するとともに、急性期中核病院として近隣の医療・介護機関と緊密な連携のもと、在宅医療を支援する。



地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

がん診療連携拠点
病院に準じる病院

認知症疾患医療
センター

◆基本理念

神戸市立医療センター西市民病院は、地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

◆基本方針

- ①患者さんの人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
- ②医療安全体制の充実を図り、患者さん及び職員の安全確保に努めます。
- ③救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
- ④高度・専門医療を充実させ、市民病院として地域医療に貢献します。
- ⑤地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
- ⑥医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
- ⑦職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。

◆診療科（令和6年3月31日時点）

消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

神戸市立西神戸医療センター

◆病院の特徴と役割

病床数：470床

一般病床：425床（うち、ICU・CCU：10床）

結核病床：45床

- ✓ 神戸西地域（西区・垂水区・須磨区）に根づいた安心・安全な医療をめざすことを理念とし、神戸西地域の中核病院として、救急医療、高度専門医療、結核医療を安定的・持続的に提供する。
- ✓ 地域連携を促進し、地域完結型医療を目指す。

地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

地域がん診療
連携拠点病院

結核指定
医療機関



◆基本理念

神戸西地域
に根づいた
安心・安全な
医療をめざ
します

◆基本方針

- ① 急性期病院として、マンパワーや設備のさらなる強化に努め、救急医療や高度専門医療を充実させることで地域住民の期待に応えます
- ② 市民病院として、結核医療や災害時の医療に対応します
- ③ 地域の中核病院として、地域連携を促進し、地域完結型医療をめざします
- ④ 市民の生命と健康を守るため、市民病院間相互の協力連携を推進します
- ⑤ 患者さんを中心としたチーム医療を行うとともに、患者さんや家族に対して誠実な態度で接します
- ⑥ 患者さんが納得できるわかりやすい説明を心がけ、患者さんや家族の自己決定権を尊重します
- ⑦ 職員が相互に協力し合い、常に改善を心がけ、医療水準や職場環境・経営体制すべてにおいてさらに誇れる病院を確立します

◆診療科（令和6年3月31日時点）

救急科、総合内科、脳神経内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、免疫血液内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、精神神経科、小児科、外科・消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

神戸市立神戸アイセンター病院

◆病院の特徴と役割

病床数：30床

一般病床：30床（眼科）

- ✓ 眼科領域の再生医療分野を中心に、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れた新しい治療を世界に先駆けて享受できる最先端の高度な眼科病院として、標準医療から最先端の高度医療まで高水準の医療を安定的に提供する。
- ✓ 眼疾患に係る臨床研究及び治験推進の臨床基盤としての役割を果たす。

国家戦略特区指定



◆基本理念

神戸市立神戸アイセンター病院は、市民のそして当院を受診する全ての患者さんの眼の健康を守るため、眼科中核病院として標準医療から高度先進医療まで提供するとともに、眼に関するワンストップセンターの核として患者さんの思いをつなげる役割を果たします。

◆基本方針

- ① 安全で質の高い医療を提供し、失明の防止とQOV（見え方の質）の向上につなげます
- ② 世界最先端の高度医療を取り入れ、地域社会・医療機関につなげます
- ③ 医療を通じて、医学研究から生活支援までつなげます
- ④ 患者さんの思いを理解し、希望につなげます
- ⑤ 職種間の一体感を持ち、人が育ち働きがいある職場づくりにつなげます
- ⑥ 職員一人ひとりが経営感覚をもち、健全な病院運営につなげます
- ⑦ そして、未来につなげます

決算概要

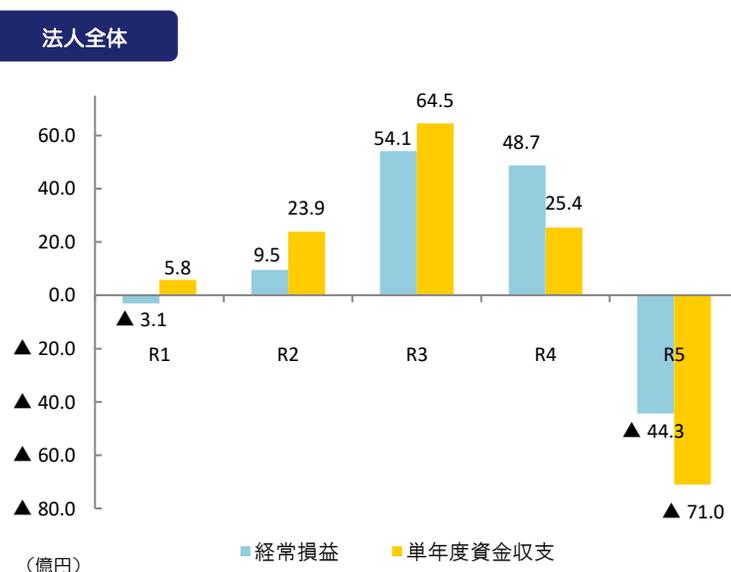
◆◆法人全体◆◆

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症へ変更され、国の制度でも段階的に特例的な財政支援が縮小される等、通常の医療提供体制へ移行しました。

各市民病院では、引き続き新型コロナウイルス感染症への対応を行いながら、これまで一部制限せざるを得なかった病床運営等を徐々に正常化しつつあり、入院・外来とも患者数は増加し、医業収益は前年度比で約31億円増加し、医業収支は好転しました。

一方で、これまでの診療制限の影響で紹介患者数が減少したほか、世界情勢を背景としたエネルギー価格の高騰、経済・物価動向に伴う経費等の大幅な増嵩等、病院を取り巻く経営環境は厳しさを増しており、新型コロナウイルス感染症対応への補助金の大幅減（前年度比約▲87億円）、や診療報酬上の特例が廃止されたこと、DX推進等に伴う減価償却費の増等も影響し、令和5年度は機構全体で経常損益は44億円の赤字、当期純損益は45億円の赤字、単年度資金収支は71億円の赤字となりました。

グラフ1：経常損益・単年度資金収支の推移（法人全体）

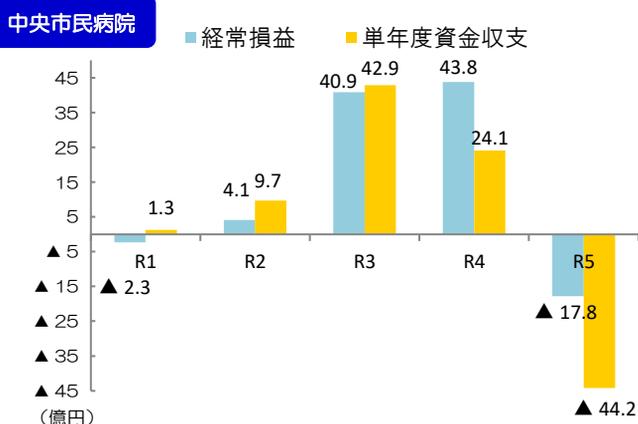


◆◆病院別◆◆

① 中央市民病院

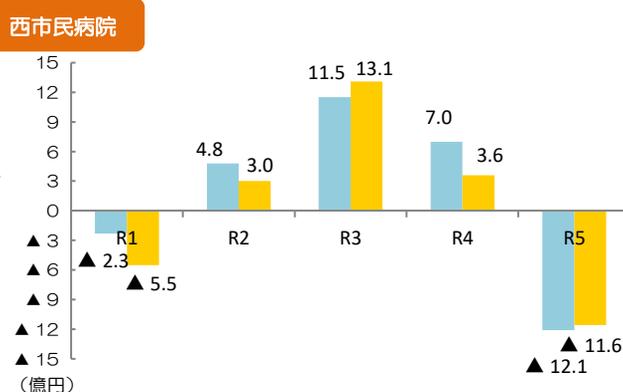
新型コロナウイルス感染症の患者を引き続き受け入れるとともに、救急医療・高度医療の提供との両立を図った結果、患者数は増加（対前年度比 入院：+2.8%、外来：+1.3%）しました。一方で、患者数の増や物価高騰の影響で医業費用も増加（対昨年度比+14.5億円）したほか、新型コロナウイルス感染症に対する補助が減少（対昨年度比 ▲50.4億円）し、経常赤字となりました。

グラフ2：経常損益・単年度資金収支の推移（病院別）



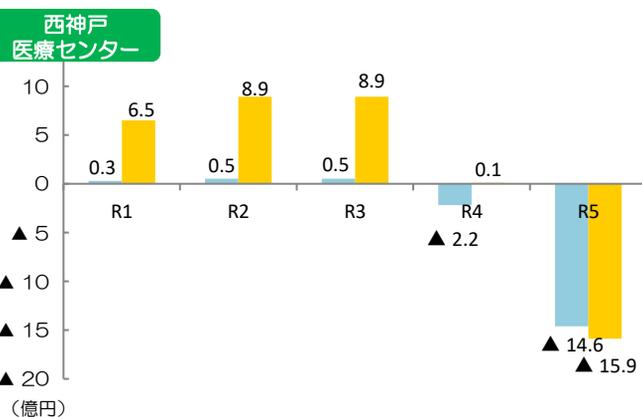
② 西市民病院

救急患者を積極的に受け入れたことで入院患者数が大きく増加（対前年度比 入院：+10.8%、外来：+2.2%）し、医業収益は増加しました。一方で、患者数の増に伴う材料費の増等、医業費用も増加し、また、新型コロナウイルス感染症に対する補助が減少（対昨年度比 ▲19.4億円）したこともあり、経常赤字となりました。



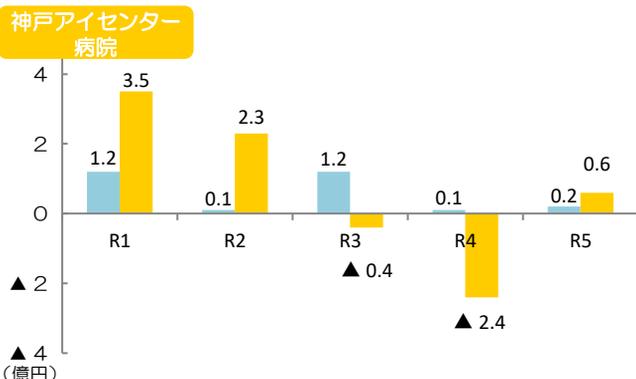
③ 西神戸医療センター

救急患者の積極的な受け入れによって患者数が増加（対前年度比 入院：+10.0%、外来：+0.7%）する等により医業収益は増加しました。一方で、患者数の増による材料費や経費の増等で医業費用も増加し、また、新型コロナウイルス感染症に対する補助が減少（対昨年度比 ▲17.4億円）したこともあり、経常赤字となりました。



④ 神戸アイセンター病院

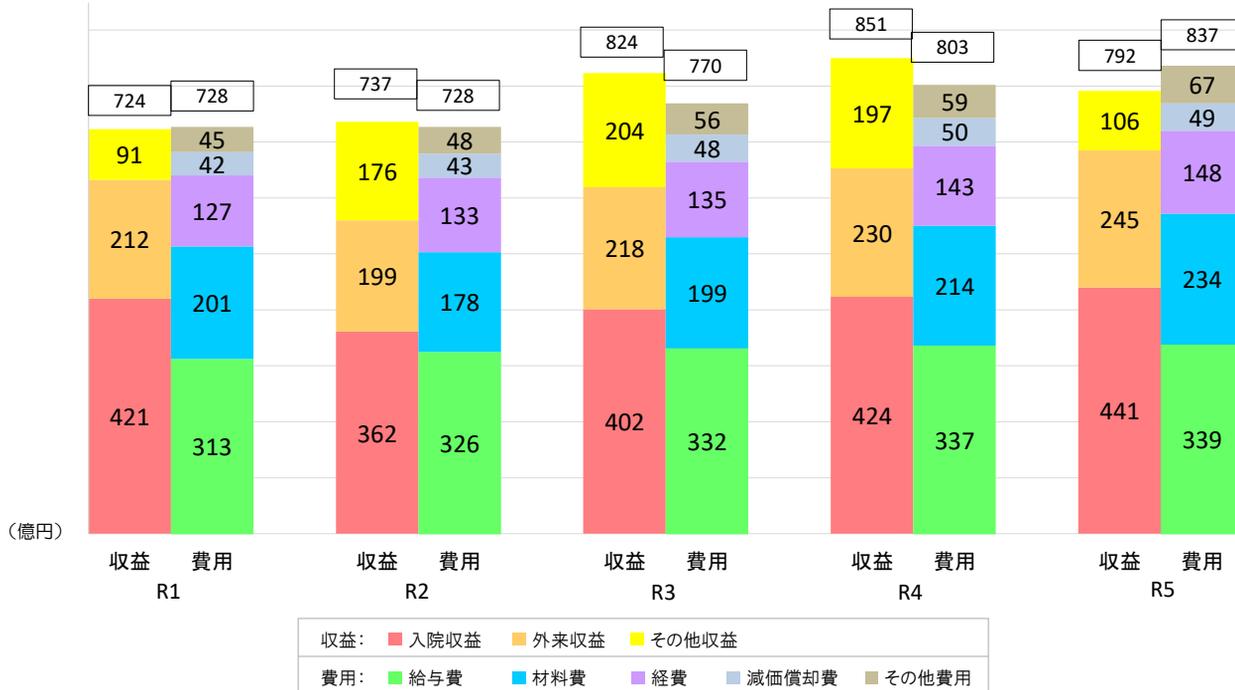
運用の効率化により手術枠、硝子体注射枠を増やしたことや、地域連携推進の結果、入外とも患者数が増加（対前年度比 入院：+2.5%、外来：+0.9%）し、収益増となりました。手術・硝子体注射件数の増に伴う材料費の増加等、費用も増えましたが、経常黒字を確保しました。



◆◆財務諸表の概要◆◆

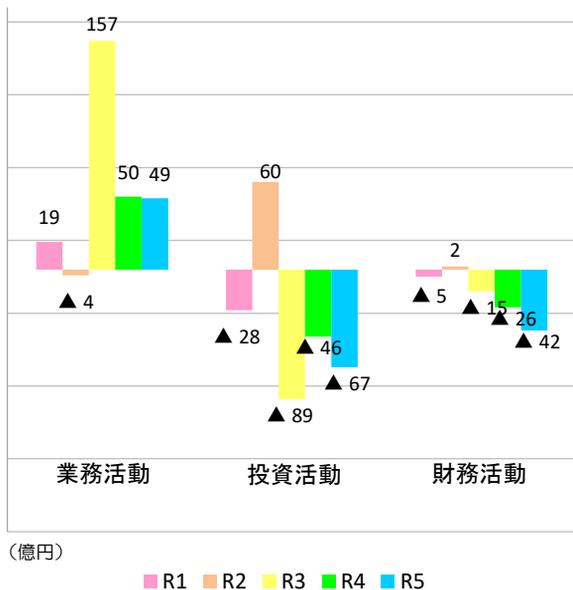
グラフ3：損益計算書

各事業年度における法人の経営成績



グラフ4：キャッシュ・フロー計算書

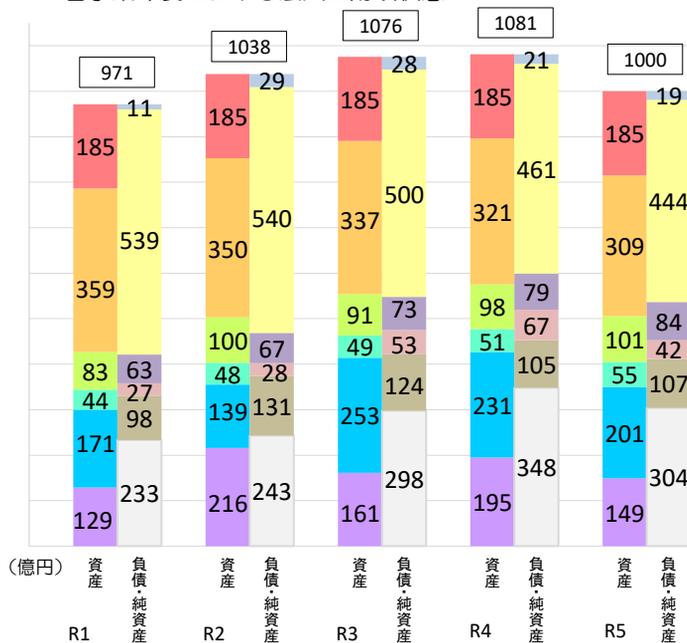
各事業年度の現金及び預金の増減を活動区別に表示



令和5年度末の現金及び預金残高は201億円となっています。

グラフ5：貸借対照表

各事業年度における法人の財政状態



資産	負債	純資産
土地	負債見返	純資産
建物等	借入金	
工具器具備品	その他	
ソフトウェア等	固定負債	
その他	借入金 (1年以内返済)	
固定資産	その他	
流動資産	流動負債	

救急医療・災害医療

1. 新型コロナウイルス感染症への対応

中央市民病院は市内で唯一の新型コロナウイルス感染症重症等特定病院※として、5月8日以降の5類移行後も重症・中等症患者を中心に受け入れ、西市民病院・西神戸医療センターでも、軽症・中等症患者の受け入れを行いました。アイセンター病院でも、陰圧化が可能な個室・手術室の確保等を行い、新型コロナウイルス感染症患者の眼科緊急手術に対応しました（表1）。

表1：入院患者の状況

令和6年3月31日 時点

病院	コロナ受入病床 最大確保時	入院患者総数		退院等（死亡）		退院等（治癒等）	
		累計	（R5年度）	累計	（R5年度）	累計	（R5年度）
中央	46床	2,801人	（465人）	242人	（14人）	2,550人	（455人）
西	43床	1,375人	（275人）	148人	（13人）	1,220人	（263人）
西神戸	45床	1,675人	（210人）	89人	（4人）	1,586人	（212人）
計	134床	5,851人	（950人）	479人	（31人）	5,356人	（930人）

※3病院の入院患者総数には、市外受入患者及び他院から転院した患者を含む。

2. 能登半島地震への対応

令和6年1月1日に発生した能登半島地震に伴い、中央市民病院より令和6年1月10日～13日に医師1人、看護師2人、業務調整員2人（臨床工学技士、事務職員）の5名で構成されたDMAT※の派遣を行い、さらに中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センターより複数回にわたる医療スタッフの派遣を行いました。（表2、写真1）

表2：3病院からの医療スタッフ等の派遣の状況（DMAT含む）

職種	総派遣人数
医師	1名
看護師	12名
薬剤師	2名
理学療法士	3名
臨床検査技師	1名
臨床工学技士	1名
事務職員	1名
計	21名

令和6年3月31日 時点



写真1 DMAT活動の様子

<新型コロナウイルス感染症重症等特定病院>

➢ 兵庫県の定める新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針のなかで規定される医療機関。重症者対策を推進することとされ、兵庫県内では神戸市立医療センター中央市民病院のほかに県立尼崎総合医療センターが指定されていたが、5類移行に伴い当該方針は廃止された。

<DMAT>

➢ Disaster Medical Assistance Team
大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム。

神戸市立医療センター中央市民病院

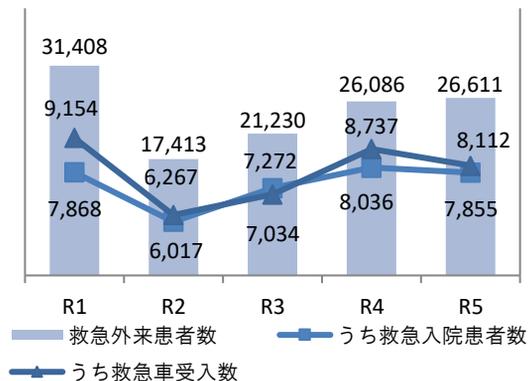
1. 中央市民病院の役割を踏まえた医療の提供

(1) 日本屈指の救命救急センターとしての役割の発揮

救急患者の受け入れ体制確保のため、院内全体の病床運営の効率化に努めることにより救急医療を提供し、救急患者の円滑な受け入れを行いました（グラフ6）。

また、厚生労働省より発表された「全国救命救急センター評価※」において、10年連続で1位に選ばれました。

グラフ6：救急患者数の推移（人）



◆令和5年度の主な取り組み

- ・全国救命救急センター評価10年連続1位（写真2）
（評価対象となる全45項目全てにおいて満点を獲得）
- ・脳卒中・胸痛・産科・小児科ホットライン※を継続



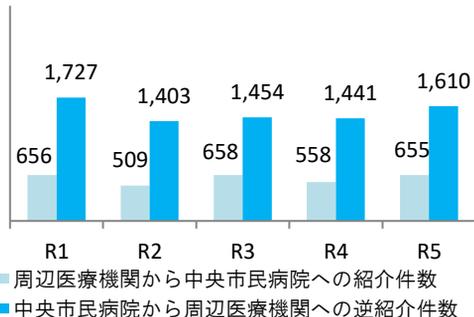
写真2 全国救命救急センター評価

(2) メディカルクラスター※との連携による先進的ながん治療等の提供

メディカルクラスターの中核病院として、神戸低侵襲がん医療センターや神戸陽子線センターとのがん医療連携を継続しました（グラフ7）。

がん治療については、手術支援ロボットを使った手術を継続するとともに、化学療法や放射線治療だけでなく、がんゲノム医療等も活用し、治療を行いました。

グラフ7：中央市民病院の周辺医療機関との連携件数の推移（件）



◆令和5年度の主な取り組み

- ・手術支援ロボット（ダヴィンチ・hinotori）を使った手術の継続
- ・CAR-T細胞療法※としてキムリア®やブレヤンジ®に加えイエスカクタ®での難治性のがん治療を開始（写真3）
- ・がん診療連携オープンカンファレンスの対面開催



写真3 多職種スタッフで構成されるCAR-T診療チーム

＜全国救命救急センター評価＞

厚生労働省において平成11年度から救命救急センター全体のレベルアップを図ることを目的として実施されている。診療体制や患者受入れ実績等に関する報告に基づき点数化される。

＜ホットライン＞

地域医療機関からの受け入れ要請や相談に対応する為の専用電話回線で、救急受付を通さずに直接診療科の担当医師に繋がる。現在、脳卒中、胸痛、産科、小児科のホットラインを設置している。

＜メディカルクラスター＞

神戸医療産業都市において高度医療や専門医療を提供する医療機関群のこと。中央市民病院は、その中心的役割を担っている。

＜CAR-T細胞療法＞

白血病やリンパ腫の一部に対する新たな治療法。白血球の一種であるT細胞を遺伝子導入により改変し、患者に投与することで、患者自身の免疫システムを利用してがんを攻撃する治療法。

(3) 神戸医療産業都市の中核機関として 治験・臨床研究の更なる推進

医師主導治験や特定臨床研究※の支援体制を行うとともに、治験・臨床研究を推進しました(グラフ8)(表3)。

また、医療現場でのニーズをもとに医療機器等の開発に向けた企業との共同研究に取り組みました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・eラーニングや動画配信システム等を活用した研究倫理教育における環境を継続
- ・トランスレーショナルリサーチ(企業等との橋渡し)の専門家を顧問として迎え、当院のシーズと企業のシーズのマッチングを促進

(4) 県立こども病院等と連携した高度な 小児・周産期医療の提供

総合周産期母子医療センター※として、母体に病気がある場合は、各診療科と協力して対応するとともに、胎児に異常がある場合は、胎児エコー、MRI等、最新の医療技術を用いて診断・救命に努め、ハイリスク分娩への対応を行いました。(グラフ9)(写真4)。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・県立こども病院との連携会議を継続して実施
- ・連携登録施設(産科・産婦人科43施設、小児科91施設)との情報共有
- ・産科ホットライン、小児科ホットラインの継続

グラフ8：治験・臨床研究件数の推移(件)

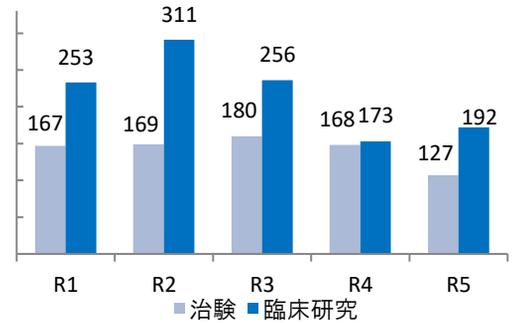


表3：特定臨床研究・医師主導治験実施件数(件)

項目	R3	R4	R5
特定臨床研究	84	86	69
うち当院が研究責任者	7	3	5
医師主導治験	13	12	13
うち当院が研究責任者	1	1	0

グラフ9：ハイリスク妊娠及び
ハイリスク分娩件数(件)

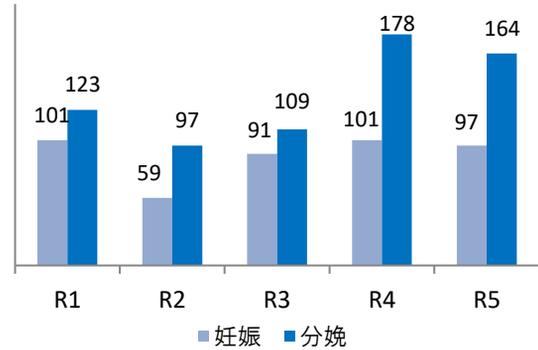


写真4 胎児超音波検査の様子

<特定臨床研究>

- ▶ 治験・臨床研究実施基準遵守義務により質が担保された臨床研究のうち、「未承認あるいは適応外の医薬品等を使うもの」「製薬会社等から資金提供を受けるもの」のいずれかに該当する研究。

<総合周産期母子医療センター>

- ▶ 新生児集中治療管理室(NICU)や母体・胎児集中治療管理室(MFICU)を備え、重い妊娠中毒症や切迫早産等危険性の高い妊婦と新生児に24時間体制で対応が可能な医療機関。

(5) 第一種感染症指定医療機関※としての役割の発揮

市内唯一の第一種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、市、県及び地域医療機関と連携を図り、平時から有事に備えた取り組みを行いました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・神戸市インフルエンザ等対策病院連絡協議会に出席し、市内の主な病院、関係機関と有事に備え連携
- ・N95マスクフィッティングテスト(写真5)や个人防护具着脱の研修会を実施
- ・神戸市の1類感染症マニュアル改訂にあたり、患者受け入れの手順について市と再確認



写真5 N95マスクフィッティングテスト

2. 共通の役割

(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

eラーニングを用いた医療安全研修の開催、各種医療安全マニュアルの改定や院内ネットワークへの掲載等、患者が安心・安全に医療を受けることができるよう取り組みました。

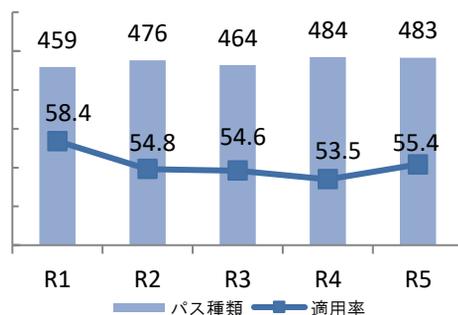


写真6 医療安全ニュースレター

◆令和5年度の主な取り組み

- ・院内ニュースレターによる放射線レポート見落とし防止に係る啓発活動を実施(写真6)
- ・クリニカルパス※適用率を上げるために事務局に「クリニカルパス相談窓口」を設置し、現況に即したパスの新規作成、修正やその他パスに関する相談を受け、改善への取り組みを実施(グラフ10)

グラフ10: クリニカルパス数(件)・適用率(%)



<第一種感染症指定医療機関>

- ▶ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律で定められた1類感染症、2類感染症又は新型インフルエンザ等感染症の患者の入院を担当させる医療機関として都道府県知事が指定した病院。

<クリニカルパス>

- ▶ 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

患者満足度調査（グラフ11）による患者ニーズを把握し待ち時間等の混雑緩和に努め、新たにマイナ保険証専用窓口（写真7）を設置する等、利用しやすい病院づくりを行いました。

また、周術期サポートチームによる術前介入の対象科を広げたほか、継続して患者相談窓口において患者からの相談に積極的に対応する等、患者や家族に対する総合的支援の強化を図りました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・インターネットを通じて患者が予約変更できる運用を継続
- ・患者相談窓口にて脳卒中や心臓病等循環器病疾患に対する相談体制を充実

(3) 市民への情報発信

患者向け広報誌の「しおかぜ通信」のほか、ホームページ、広報誌KOB E等、様々な手法を用いて、病院での取り組みや治療に関する情報を患者や市民へ分かりやすく発信しました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・西神戸医療センターと共催でがん市民フォーラムをハイブリッド形式で開催
- ・令和5年11月に、中央市民病院におけるコロナ対応の記録誌が神戸新聞社より出版（写真8）
- ・令和6年3月に100周年を迎えた中央市民病院の魅力を広報紙KOB Eにて特集（写真9）
- ・100周年記念動画を製作し、ホームページや三宮M I N T神戸の大型スクリーンで一般公開

グラフ11：患者満足度調査（とても満足、やや満足の割合）の推移（%）

※R3より回答選択肢を変更

旧：満足・やや満足・やや不満・不満の4段階評価

新：とても満足・やや満足・ふつう・やや不満・とても不満の5段階評価

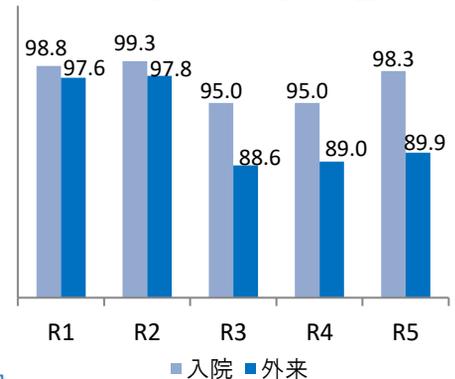


写真7 マイナ保険証専用窓口



写真8 コロナ対応の記録誌（神戸新聞社）



写真9 広報紙KOB E 3月号

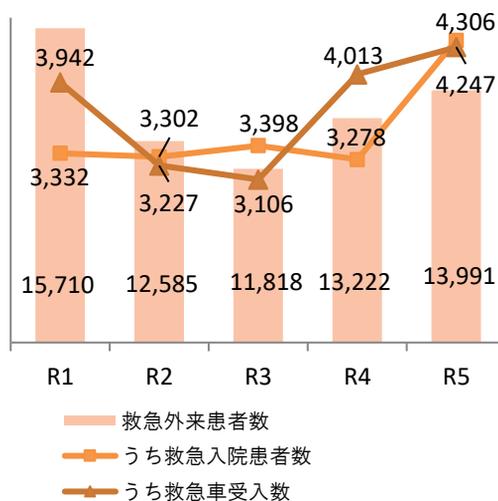
神戸市立医療センター西市民病院

1. 西市民病院の役割を踏まえた医療の提供

(1) 地域の患者を24時間受け入れる救急医療の提供

新型コロナウイルス感染症5類移行後も流行状況に応じた対応を行い、2次救急病院として24時間365日受け入れに努め、**救急外来患者数、救急入院患者数及び救急車受入数が増加**しました(グラフ12)。

グラフ12：救急患者数の推移(人)



◆令和5年度の主な取り組み

- 救急ポケットマニュアルの改訂やオンコール体制の強化等、症状に応じた受入体制を提供
- 緊急入院時に患者・家族に対しタブレットを用いた説明を開始(写真10)
- 長田消防・兵庫消防との合同意見交換会を開催し、症例検討、及び実技講習等を実施(写真11)

(2) 地域のハイリスク分娩に対応できる周産期医療の提供

市街地西部唯一の総合的診療機能を持つ分娩取扱医療機関として、院内各科と連携し、正常分娩や基礎疾患等を持つ妊産婦をはじめとしたハイリスク分娩・妊娠にも対応し、安定的な周産期医療を提供しました。

◆令和5年度の主な取り組み

- NIPT*受け入れ病院として、当院で分娩予定の妊婦だけでなく、他院で分娩予定であるが検査のみを希望する妊婦も対象に非侵襲性出生前遺伝学的検査を継続実施
- 産科病棟シャワー室の美化工事を実施(写真12)
- 各種教室(ほのぼの教室、両親教室)の実施(写真13)



写真10
タブレット説明



写真11 消防との研修



写真12 産科病棟シャワー室改修



写真13 各種教室

<NIPT>

> NIPTとは“非侵襲的出生前遺伝学的検査”のことで、胎児の染色体疾患の有無を検査する出生前検査法。

(3) 地域需要に対応した小児医療の提供

長田区で唯一の小児二次救急輪番体制^{*}を維持し、地域における安定的な小児救急医療の提供に努め、救急患者数が大幅に増加しました(グラフ13)。

また、多職種による協力のもと、アレルギーをはじめとした小児疾患への対応を行うとともに、講演会や広報紙を通して地域医療機関への情報発信を行いました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・学校や保育現場で生じたアレルギー児対応について、専門医をはじめ地域の多職種で考える「アレルギー児に対する地域連携の会」を開催(写真14)
- ・病児保育室の運営継続による地域の子育て支援への寄与(写真15)



写真15 病児保育室

(4) 認知症患者に対する専門医療の提供

認知症疾患医療センターとして、認知症鑑別診断^{*}(グラフ14)や認知症専門医療相談を実施するとともに、認知症への理解を深めるための啓発活動等、市の政策である「認知症の人にやさしいまちづくり」の推進に寄与しました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・動画配信や独自で作成したパンフレットを用いた啓発活動を実施
- ・「認知症へのそなえ」をテーマにした市民公開講座を動画配信(写真16)
- ・レカナマブ^{*}診療に向けた体制整備を実施

グラフ13: 小児救急患者数(人)

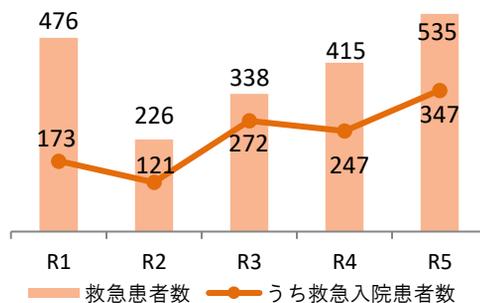


写真14 食物アレルギー地域連携の会

グラフ14: 認知症鑑別診断件数の推移(件)

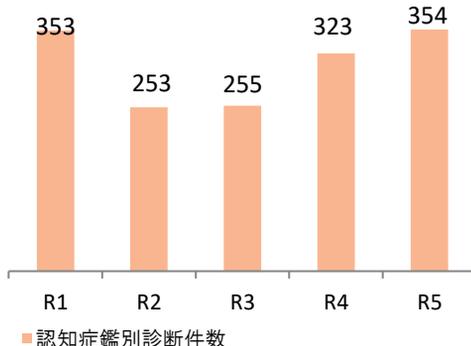


写真16 市民公開講座(動画配信)

<病院群輪番制>

神戸市内の救急医療確保のため、市内の医療機関が毎日交替で当番病院として救急医療にあたる制度。小児救急医療のほか、内科系、外科系、脳疾患、循環器疾患、整形外科、消化器外科等がある。

<認知症鑑別診断>

CT、MRI、脳血流検査等の画像検査、記憶・知能等に関する心理検査等を行い、認知症の種類や状態を正確に把握すること。

<レカナマブ>

認知症の専門診療を適切に行えるための基準を満たした医療機関でのみ使用できる軽度認知症に対する新規治療薬。

(5) 生活習慣病患者の重症化予防に向けた取り組み

糖尿病地域連携パス(グラフ15)やワントタイム連携※に加え、神戸糖尿病地域連携パス(Kobe DM net)※(写真17)の運用による地域医療機関との連携のほか、管理栄養士による栄養指導等、院内多職種によるサポートのもと、生活習慣病の早期治療や重症化予防に取り組ましました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・地域の事業所で出張糖尿病チェックを実施し、予防のための啓発活動や受診勧奨を実施
- ・地域の方に向けた糖尿病教室を開催(写真18)



写真18 糖尿病教室

グラフ15: 糖尿病地域連携パス連携症例数の推移(件)

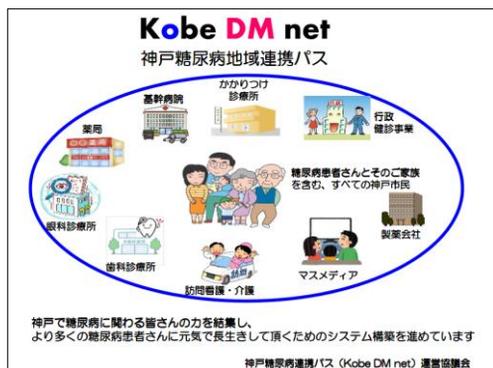
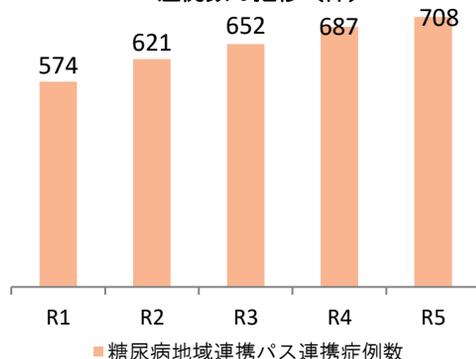


写真17 Kobe DM net

2. 共通の役割

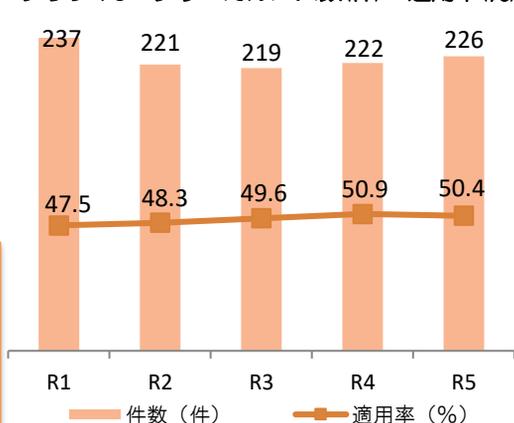
(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

週1回医療安全管理室によるミーティングを実施し、インシデント・アクシデントに関して討議し、対応の検討や情報共有を行い、再発防止に努めました。医療安全教育については、eラーニングを用いた研修を実施し、医療安全意識の醸成に努めました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・中央市民病院、荻原記念病院と相互監査を実施
- ・クリニカルパス※委員会やニュースレターを活用し、パス適用率向上の働きかけを行い、適用率が目標値(50.0%)を達成(グラフ16)

グラフ16: クリニカルパス数(件)・適用率(%)



<ワントタイム連携>

- ▶ 地域の医療機関からのニーズが多い「糖尿病薬物療法の選択」及び「栄養相談実施」を、病院への一度の紹介受診のみで実施する取り組み。

<Kobe DM net>

- ▶ 診療所及び病院が密接に連携し、糖尿病患者さんに早期介入し継続治療することを目的として、平成25年4月から始められた取り組み。

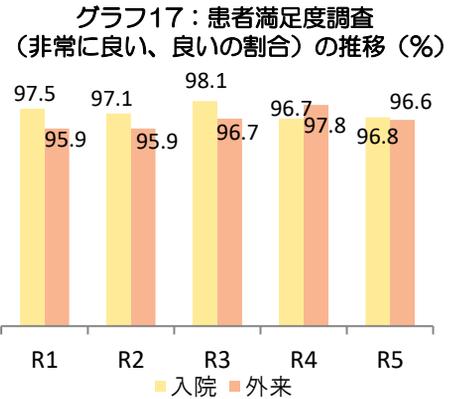
<クリニカルパス>

- ▶ 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

来院者の不安や質問にきめ細かく対応するため、外来看護担当マネージャー、フロアマネージャーを配置し、来院される方の不安や質問にきめ細かく対応できるよう、総合案内機能の充実を継続しました。

また、退院時アンケートや患者満足度調査を通し、患者ニーズの把握に努め、必要な改善を行いました(グラフ17)。



◆令和5年度の主な取り組み

- ・待ち時間短縮の取り組みとして、FAX予約に加え患者からの**電話予約を開始**
- ・療養環境の改善のため病室・共有スペースの**美装化を実施**(写真19)
- ・接遇能力の向上のため、全職員を対象に、講師を招聘し**接遇研修を開催**(写真20)



写真19 病棟共有スペースの美装化



写真20 接遇研修の様子

(3) 市民への情報発信

市民向け広報誌「虹のはし」やYouTubeでの動画配信を行い、医療情報、医療スタッフの役割や新しい取り組みについて、分かりやすく情報を発信しました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・患者向け教室(小児アレルギー、糖尿病、市民公開講座)の開催や動画配信(14テーマ・視聴総数52,998回)により、市民の健康づくりに向けた地域への情報を発信(写真21・22)



写真21 小児アレルギー講習会



写真22 市民公開講座

神戸市立西神戸医療センター

1. 西神戸医療センターの役割を踏まえた医療の提供

(1) 地域の医療機関と連携した24時間体制での救急医療の提供

新型コロナウイルス感染症疑いも含めた感染症患者の受け入れを行うとともに、救急医療体制の制限を最小限に留めながら市民の生命を守ることに努めました。

また、救急受け入れ状況を共有・分析し、救急車の受け入れを促進することで救急車受入数が大幅に増加しました（グラフ18）。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・西消防署及び垂水消防署との意見交換会を実施し、病院の状況や消防署の懸案事項について意見交換を実施
- ・救急処置室に隣接するCT撮影装置の活用により、迅速な診断や治療を継続実施（写真23）

グラフ18：救急患者数の推移（人）

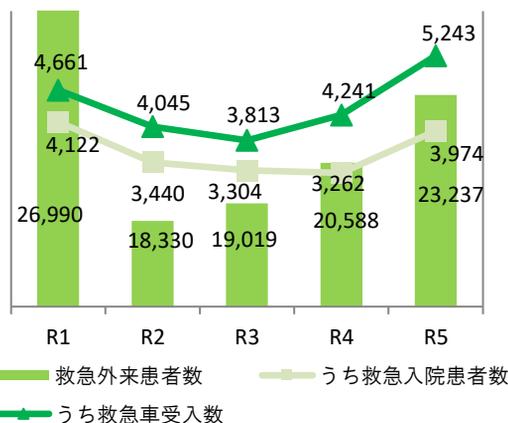


写真23 CT撮影装置（救急外来）

(2) 地域における小児救急・小児医療の拠点機能の提供

連日の小児救急外来を継続するとともに、小児二次救急輪番※を担当し、一次診療所からの紹介患者の対応も継続しました。

また、小児救急患者について、救急外来の受け入れ時間中に要請のあった救急車はほぼ100%受け入れ、神戸西地域のみならず、明石市や三木市等の周辺地域の小児救急体制を安定的に提供しました（グラフ19）。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・ファミリーサポートチーム※主催で、外部講師を招いた院内講習会を実施（写真24）

グラフ19：小児（15歳未満）救急患者数の推移（人）

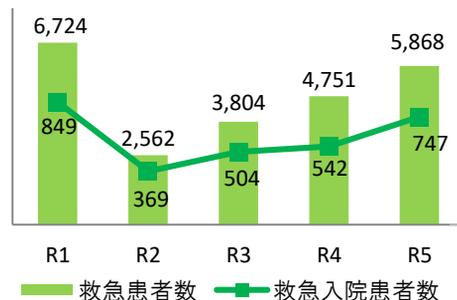


写真24 ファミリーサポートチーム主催の院内講習会

<病院群輪番制>

- ▶ 神戸市内の救急医療確保のため、市内の医療機関が毎日交替で当番病院として救急医療にあたる制度。西神戸医療センターでは、毎週土曜日と第2、第3水曜日を担当。小児救急医療のほか、内科系、外科系、脳疾患、循環器疾患、整形外科、消化器外科等がある。

<ファミリーサポートチーム>

- ▶ 虐待を受ける等、不適切な養育が疑われる小児患者及び配偶者等からの暴力が疑われる患者（以下「被虐待患者」という。）の発見に努め、地域の医療機関、福祉、保健、警察、司法及び教育等の関係機関との適切な連携を推進し、被虐待患者の養育支援及び保護を実施するために多職種で設立されたチーム。

(3) 地域周産期母子医療センターと同程度の機能の提供

合併症妊娠等のハイリスク妊娠・ハイリスク分娩（全分娩の約30%）や、小児科が対応可能な32週以降の母体搬送を受け入れるとともに、新型コロナウイルス感染症妊婦の受け入れを継続し、地域の需要に応じた周産期医療の提供に努めました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・ 出産早期の育児不安の解消を図るための産後2週間健診を継続（写真25）
- ・ ㈱ファミリアのサポートクリニック※として、オリジナル肌着一体型ベビー服の活用や、出産の思い出づくりのためのフォトブースの設置を継続（写真26）



写真25 産後2週間健診



写真26 ファミリアサポートクリニックのご案内

(4) 幅広いがん患者への支援と集学的治療の提供

手術支援ロボット（ダヴィンチ）による手術やリニアックによる高精度放射線治療等、質の高い集学的治療を提供するとともに、緩和ケアセンターにおいて患者支援や情報提供を継続し、国指定の地域がん診療連携拠点病院※として総合的ながん診療を実施しました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・ 緩和ケアセンターの多職種によるアプローチで、より一層、がん患者への症状緩和や支援、情報提供を継続（写真27）
- ・ 患者支援センターにて、入院前オリエンテーションへ栄養相談を実施（写真28）
- ・ 患者が安心、納得して有効な抗がん剤治療が行えるよう薬剤師が事前の副作用説明・対策を実施（写真29）



写真27 多職種で構成される緩和ケアチーム（緩和ケアセンター運営）



写真28 入院前オリエンテーションでの栄養相談



写真29 薬剤師外来

<サポートクリニック>

- ▶ ファミリアでは、妊娠してから出産までの約270日と、赤ちゃんが生まれてから2歳の誕生日を迎えるまでの730日を合わせた1000日をサポートする取り組みを行っている。

<地域がん診療拠点病院>

- ▶ がん医療圏に1カ所整備し、専門的ながん医療の提供、がん診療の連携協力体制の整備、がん患者に対する相談支援及び情報提供を担う。

(5) 結核医療の中核機能の提供

市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者の専用病棟、結核患者にも対応できる手術室等の設備を活用し、多職種の間での協力のもと引き続き総合的な結核医療を提供しました（グラフ20）。

また、他の感染症を合併している患者等を隔離するため、個室化工事を行い個室利用を開始しました（写真30）。

2. 共通の役割

(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

医療安全推進室を中心に、週1回ミーティングを行い、インシデントやアクシデントに関する調査・分析及び対策の検討を実施しました。実際のインシデント等への対策として注意喚起文やレターを適宜発行するとともに、関連事項について研修内容に盛り込む等、職員への啓発を図りました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・医療の質向上のため、卒後臨床研修評価機構※による訪問審査を受審・認定（令和6年2月1日付）（写真31）
- ・クリニカルパス※小委員会において、パス適用率（グラフ21）向上に向け検討するとともに、クリニカルパス日数とDPC日数の検証を行い、診療科へ情報を提供
- ・画像診断レポート・病理診断レポート・生理検査レポートの見落とし防止のため既読管理を継続
- ・eラーニングを活用した医療安全研修の継続

グラフ20：結核に関する指標の推移

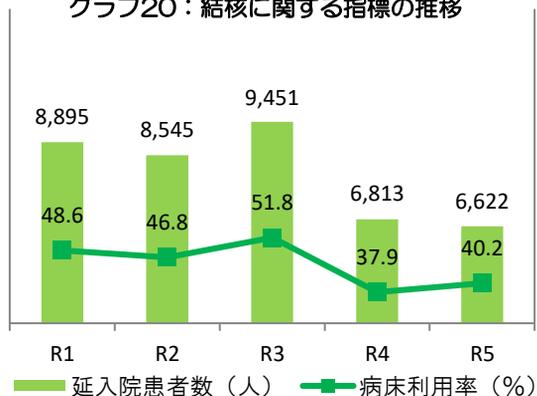


写真30 結核病棟個室

グラフ21：クリニカルパス数(件)・適用率(%)

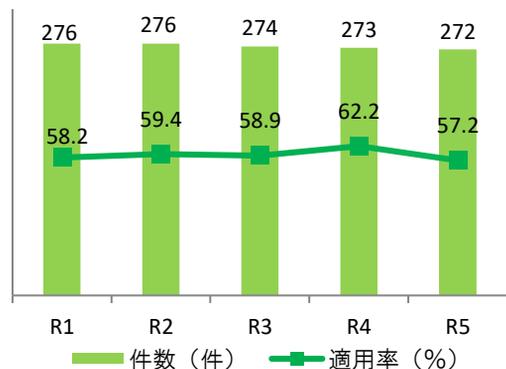


写真31 卒後臨床研修評価機構 認定証

<卒後臨床研修評価機構（JCEP）>

- ▶ 臨床研修病院の第三者評価機関として、研修プログラムに関する基準の策定・公表及び評価事業等を行っている。

<クリニカルパス>

- ▶ 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覽にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

患者が安心して治療が受けられるよう、患者支援センター（写真32）で外来、入院、退院、かかりつけ医との連携、在宅医療にいたるまで一貫した支援を継続して行いました。

また、患者満足度調査を実施し、患者ニーズの把握・検討等を行いました（グラフ22）。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・平日の来院患者数がピークとなる時間帯については、総合案内に看護師等を配置し、それ以外の時間帯についても患者相談窓口で診療科相談や受診手続き等の説明やアドバイスを継続して実施
- ・近隣の提携駐車場の1時間無料サービスを継続するとともに、外来駐車場1時間無料サービスの機械化を実施（写真33）
- ・院内職員の演奏・合唱によるがん患者向けのクリスマスコンサートを対面形式で実施（写真34）

(3) 市民への情報発信

患者や一般市民を対象とした院内広報誌「そよかぜ」の発行を年回3回から年6回に増やし広報活動を強化することで、さらに病院の取り組み等について市民へ分かりやすく提供しました。

また、がん相談支援センターを運営するとともに、各種教室に関しては、「糖尿病教室だより」「腎臓病教室だより」等、広報紙を発行し、療養サポートに努めました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・がん患者やその家族が語り合うためのサロンの再開（写真35）
- ・がん相談支援センターとして、がん患者の相談窓口となり、また、がん患者への情報提供を継続

グラフ22：患者満足度調査（満足、やや満足の割合）の推移（%）

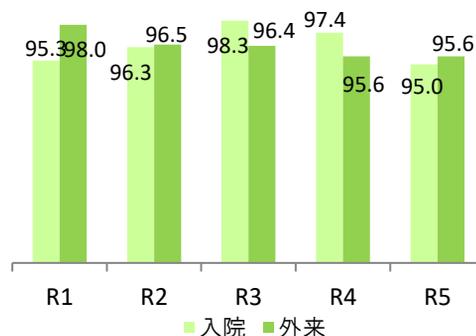


写真32 患者支援センター



写真33
外来駐車場1時間
無料サービスの
機械化



写真34 対面でのクリスマスコンサート



写真35 がん患者サロン

1. 神戸アイセンター病院の役割を踏まえた医療の提供

(1) 標準医療から最先端の高度な眼科医療まで質の高い医療の提供

眼科専門領域を網羅した診療体制のもと、質の高い医療を提供するとともに、24時間365日体制での眼科救急や、中央市民病院と連携し全身的な症状を有する眼疾患への対応を行いました。

i P S細胞移植の実用化に向けた取り組みも進めました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・手術室の運用見直しや、硝子体注射枠の効率的な運用により、手術及び硝子体注射の実施件数が過去最多（グラフ23）
- ・眼科領域における日本初の遺伝性疾患に対する検査の保険収載化及び中央市民病院との連携による遺伝子治療*の実施機関への認定（写真36）
- ・紹介受診重点医療機関に認定されたほか、紹介患者数・逆紹介患者数が過去最多（グラフ24）
- ・緑内障に関して、薬剤師や看護師による外来等、総合的な取り組み実施

グラフ23：手術件数・硝子体注射件数（件/月）

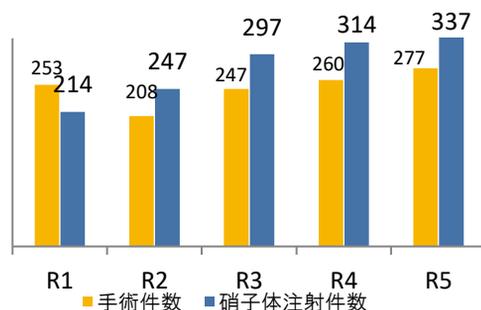


写真36 遺伝子治療薬剤調剤シミュレーション

グラフ24：紹介・逆紹介件数（件/月）

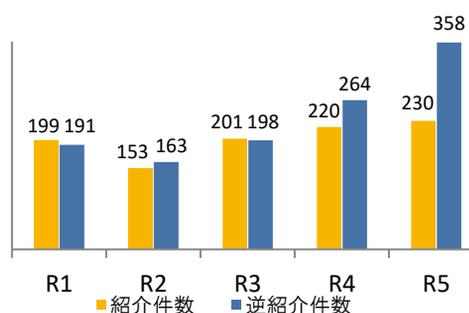


写真37 凝集紐移植手術の様子

(2) 治験・臨床研究を通じた次世代医療の開拓

i P S細胞由来網膜色素上皮細胞（R P E）移植については、令和4年2月に承認されたR P E凝集紐移植の臨床研究を進め、令和5年4月に3例目の移植を実施し、経過観察を進めました（写真37）。

さらにi P S研究以外にも多分野の研究開発を進めました。

また、研究センターの体制を刷新し、副センター長を2名体制にし、指揮命令系統を明確にするとともに、品質管理部門を新設する等、研究機能を強化しました。

<日本初の遺伝子網膜疾患に対する検査及び遺伝子治療>

> 夜盲（暗いところでものが見えにくくなる）や視野狭窄（視野が狭くなる）等の視覚障害が生じる網膜の病気である遺伝性網膜ジストロフィーの遺伝子診断及び遺伝カウンセリングに関して、検査については保険適用に向けて国に申請し、昨年8月に認められ（保険収載化）、さらに日本網膜硝子体学会から中央市民病院と連携して治療を行う治療実施施設として認定を受けた。これによって、眼科領域における日本初の遺伝子検査及び遺伝子治療の提供施設となった。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・ i P S細胞由来網膜シート移植(2例)は、「i P S細胞由来網膜シート移植後2年の細胞生着及び安全性確認」として論文発表及び記者資料提供(12月)を実施・世界初の自家R P Eシート移植(平成26年)に関し、移植後7年を経て、追加治療なく視力維持が確認されたことを報告(写真38)
- ・ 遺伝子検査、ロボットでの細胞製造、医療用A Iによる遺伝カウンセリング等、多分野で研究開発を推進
- ・ フランスを代表する研究機関「Institut de la Vision」との日仏合同科学セミナーをパリで開催(写真39)

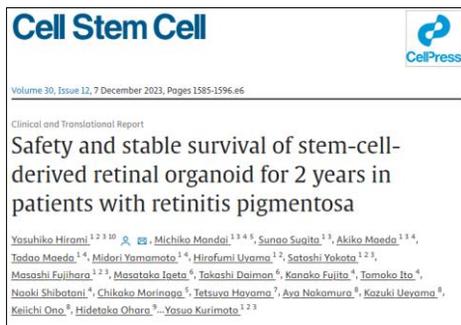


写真38 網膜シート論文発表



写真39 日仏合同科学セミナー

(3) 視覚障害者支援施設等と連携した患者の日常生活支援

視覚障害者支援を実践する公益社団法人NEXT VISION協力のもと、患者の社会生活への円滑な復帰支援を進めることを目的とし、生活・就労相談、視覚的補助具・補装具の紹介や患者への情報発信等、視覚障害者への支援を継続しました。

患者個人の状態に合った食事の提供等(写真40)、各部門においても患者目線に立った日常生活支援の向上に取り組みました。



写真40 明暗のついた食器による食事

◆令和5年度の主な取り組み

- ・ オンラインでの遺伝カウンセリングを継続
- ・ 専用アプリを使って視覚障害者が安全に歩行できる点字ブロック「sh i K A I」※を院内各所に設置(写真41)
- ・ 身体障害者手帳取得支援やロービジョン外来の事前問診、歩行誘導研修等継続



写真41 点字ブロック「sh i K A I」

< sh i K A I >

➢ 点字ブロックに貼ったQRコードを、専用アプリから起動したスマートフォンのカメラで読み取ることで、現在地から目的地までの正確な移動ルートを導き出し、音声で目的地までナビゲートするシステム。



(4) 診療・臨床研究を担う未来の医療人材育成

各部門において策定した部門計画を元に、院長ヒアリングで進捗確認を行うとともに、各部門への評価を行い、病院全体の機能強化及び人材育成に取り組みました。

また、研究費増や多職種で研究費が利用できるように研究費制度の見直しを行ったことで、学会発表件数の増加に繋がりました。



写真42 パタングス医療センター（フィリピン）眼科医との合同ロービジョンセミナー

◆令和5年度の主な取り組み

- ・連携大学院制度※を活用した大学院生の採用や国内外の他大学からの医師研修生を受け入れ（国内から4名、フィリピンから4名、アメリカから1名）（写真42）
- ・日本の医師免許を持たない外国人医師が国内での診療が可能な臨床修練病院に指定（写真43）

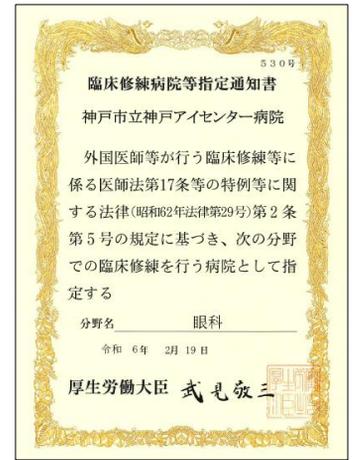


写真43 臨床修練病院等指定通知書

2. 共通の役割

(1)安全で質の高い医療を提供する体制の構築

医療安全ミーティングにおいて、インシデントレポートを検証し、業務手順の見直し等、必要な対策を行いました。

多く発生したインシデント事例は、啓発ポスターを作成し、再発防止に努めました。

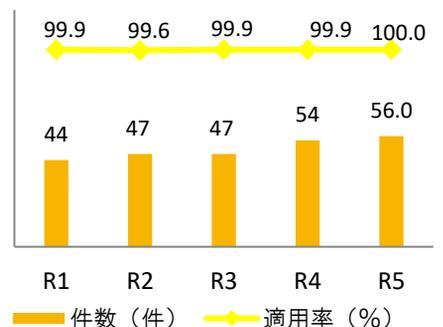
◆令和5年度の主な取り組み

- ・医療安全推進に必要なチームワークを良好にするためのチームステップス※研修を継続実施
- ・医療安全に対する意識向上を図るため、医療安全ニュースを発行（写真44）
- ・提出されたインシデントに基づき、混同しやすい名称の薬剤が含まれるクリニカルパス※を改定する等、医療安全対策実施（グラフ25）



写真44 医療安全ニュース

グラフ25 クリニカルパス数(件)・適用率(%)



<連携大学院制度>

▶ 連携大学院制度は、アイセンター病院医師が大学院の客員教員となり、大学院生に最先端の研究教育や指導を実施する制度。

<チームステップス>

▶ チームとしての取り組みによって医療安全・患者安全文化を醸成させるためのトレーニング・プログラム。

<クリニカルパス>

▶ 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画のこと。

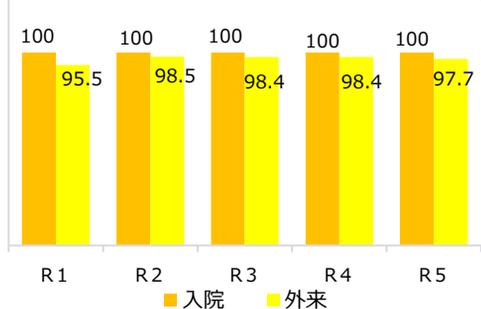


(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

外来・退院患者へのアンケートを継続し、幹部会や患者サービス委員会で情報共有するとともに、必要な改善を行いました。

患者満足度調査では、入院・外来ともに引き続き高い満足度を維持し、入院では**6年連続100%**となり（グラフ25）、嗜好調査でも高い満足度を維持しました。

グラフ26：患者満足度調査（満足、やや満足の割合）の推移（%）



◆令和5年度の主な取り組み

- ・入院患者向けQA集の作成や車いす介助者研修の継続（写真45）
- ・電子お薬手帳用QRコードの運用
- ・視覚障害者対応に加えておいしい食事の提供



写真45 車いす介助者研修

(3) 市民への情報発信

刷新したホームページ（写真46）や患者向け広報誌を通して病院の新たな取り組みを分かりやすく紹介し、待合のデジタルサイネージで、各疾患の説明や点眼方法に関する動画を継続して放映しました。

また、世界緑内障週間*の啓発活動（ライトアップ&グリーン活動）に継続して参加しました。



写真46 ホームページの刷新

◆令和5年度の主な取り組み

- ・絵本作家のヨシタケシンスケ氏が神戸アイセンターの「モシクワ係*」に就任し、神戸アイセンターの活動を分かりやすく情報発信するため、公式キャラクター「テンポー」（写真47）を活用した取り組みを開始
- ・国内外からの視察（ウクライナ・リヴィウ市、Wills Eye Hospital、大連医科大学病院等）や国内各マスメディアの取材にも対応



写真47 神戸アイセンター公式キャラクター「テンポー」

<世界緑内障週間>

- ▶ 世界緑内障連盟と世界緑内障患者連盟による、緑内障を多くの方知ってもらう取り組み。緑内障は日本での中途失明原因第一位の疾患であり、早期発見に向けて、全国的に啓発を行っている。

<ヨシタケシンスケ氏/モシクワ係>

昭和48年、神奈川県生まれ。日常のさりげないひとコマを独特の角度で切り取ったスケッチ集や、児童書の挿絵、装画、イラストエッセイ等、多岐にわたり作品を発表している。「モシクワ係」とは、神戸アイセンターの活動に対して、もしくはこういう伝え方ができるんじゃないか、もしくはこういう絵で表現できるんじゃないか、ということ提案するための役割。



優秀な職員の確保と人材育成

1. 優れた専門職の確保と人材育成

(1) 職員の能力向上等への取り組み

将来性のある新卒世代の人材確保に努め、さらに即戦力として活躍できる人材を対象とした年度途中採用選考を実施しました。

また、資格取得支援制度、留学制度等（表4）により職員の能力向上等の支援を継続するとともに、各階層や職種ごとにおける研修を実施しました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・看護職員の離職防止に向けたワーキングチームを立ち上げ、現状分析し、課題抽出を実施
- ・職員の学術研究に対する意識の向上を目指し4病院合同学術研究フォーラムを再開（写真48）

(2) 職員が意欲的に働くことのできる人事給与制度の構築

業績より職員が高いモチベーションを持って業務に従事し、組織全体のパフォーマンス向上を図れるよう、人事評価制度の見直しを実施する等、職員の能力及び基づく人事給与体制の構築に取り組みました。

ワークライフバランスの確保に向け、休暇制度の整備や院内保育所・病児保育室等の運営を継続しました。

働き方改革の推進では、医師をはじめとした医療従事者の負担軽減に関する取り組みとして職種間の連携や役割分担等を進めました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・スマートフォン（写真49）や病床管理システム*の導入（中央）（写真50）
- ・外来受診時のトリアージの効率化を目的に、診療科別にタブレット問診を開始（西）（写真51）
- ・医師事務作業補助者の配置を継続（4病院）

制度	利用者数
資格取得支援制度	34名
看護職員長期留学制度	7名
看護職員大学院留学制度	4名
短期国内外派遣制度	1名

表4 主な制度の利用者数（R5）



写真48 4病院合同学術研究フォーラム



写真49 スマートフォンの導入



写真50 病床管理システムの導入



写真51 タブレット問診

<病床管理システム>

- ▶ 電子カルテ等の医療情報を二次活用し、病床全体の利用状況や入院患者の状況を可視化し、入院・転棟・退院のベッドコントロールを支援するシステム。

(3) 人材育成等における地域貢献

神戸市看護大学をはじめ、市内の大学、専門学校に対して、学校訪問や学校主催の合同就職説明会に参加する等、密な連携を図りました。

また、医師、看護師をはじめとした医療系学生を対象に病院見学や実習受け入れを行い、教育病院としての役割を果たしました（写真52）。



写真52 病院見学の様子

2. 効率的な業務運営体制の構築

(1) PDCAサイクルが機能する仕組みの構築及び法令遵守(コンプライアンス)の徹底

理事長によるヒアリングを通じた年度計画の達成状況及び課題の把握等、機構内における情報共有を図り、PDCAを意識した取り組みを進めました。また、常任理事会や理事会における月次決算や決算見込、新型コロナウイルス感染症への対応等の報告において、病院ごとの運営状況を把握するとともに、課題が発見された際は迅速な対応を行いました。

コンプライアンス推進本部会議等により法令遵守への取り組みを進めたほか、監事監査、会計監査、情報セキュリティ監査等の内部監査を実施しました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・理事長ヒアリング、院長ヒアリング、本部長ヒアリングの実施
- ・全職員を対象としたコンプライアンス研修の実施

(2) 市民病院間における情報連携体制の強化

令和3年度に設置した「DX推進室」の人員体制を強化し、法人における一層のDX推進に取り組みました。また、情報セキュリティ研修や訓練を実施するとともに、**サイバー攻撃対策についても、端末の不審な挙動を監視するシステム等を導入し、強化を図りました。**



写真53 電子決裁・文書管理システム

◆令和5年度の主な取り組み

- ・電子決裁・文書管理システムの導入（写真53）
- ・情報セキュリティポリシーの改定
- ・情報セキュリティ外部監査の実施（中央）
- ・訓練の実施（写真54）、サイバーBCPの策定
- ・サイバー攻撃対策として端末の不審な挙動を監視するシステム等の導入（中央・西・西神戸）



写真54 訓練実施の様子

経営状況について

1. 経営改善の取り組みと経常収支目標の達成

(1) 共通の取り組み

各病院において院長ヒアリングを年に数回実施し、各診療科や部門における現状分析や課題の共有を図りました。また、DPCデータを活用しながら、新たな加算や上位基準の取得を進め収益増加を図りました。

(2) 中央市民病院

◆令和5年度の主な取り組み

- ・ 院長ヒアリングにおいて、各診療科における現在の取り組み（新規患者の獲得、医師の確保・定着、業務効率化等）を確認し改善を促進
- ・ 選ばれる病院となるため医療者が地域へ出向き住民へ情報提供を行う「出張患者教室」を開催
- ・ 共同購入の対象品目を拡大

(3) 西市民病院

◆令和5年度の主な取り組み

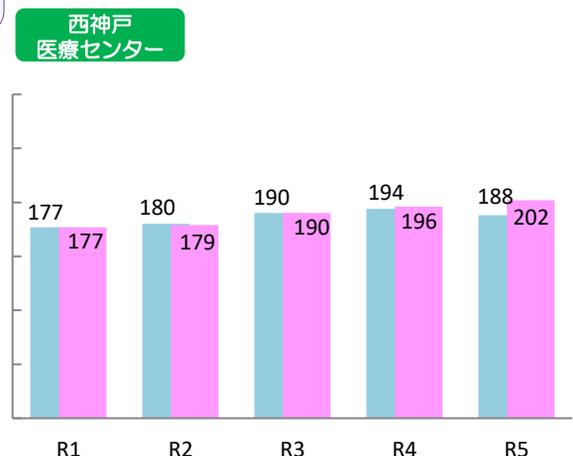
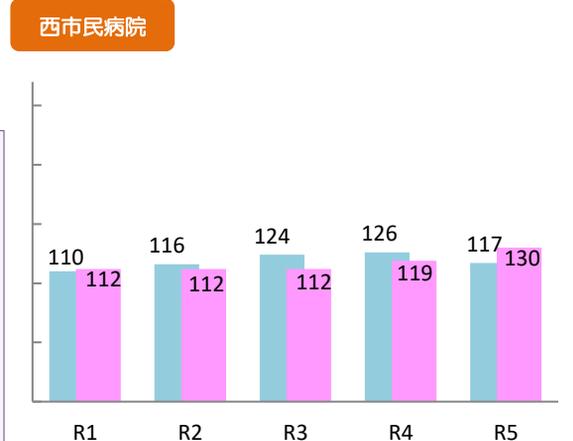
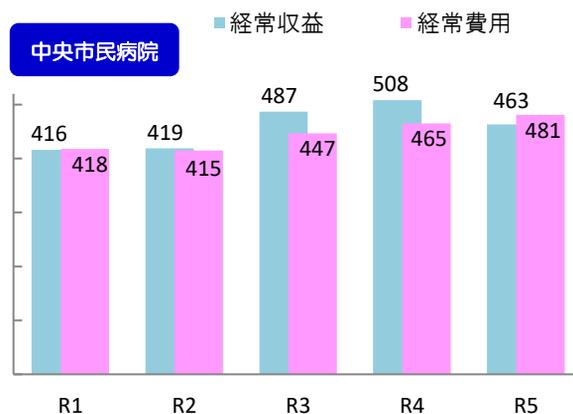
- ・ 手術支援ロボット（ダヴィンチ）を活用した手術に係る施設基準を取得（7種）し適応を拡大
- ・ 紹介患者の増加への課題解決に向けて、紹介が減少した診療所へ重点的に訪問
- ・ DPC係数を意識した入院期間の適正化に努め、次年度の効率性係数の向上に寄与

(4) 西神戸医療センター

◆令和5年度の主な取り組み

- ・ 「退院時リハビリテーション指導料」、「入退院支援加算」、「救急医療管理加算」の算定件数向上
- ・ 「手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1」の対象診療科を拡大
- ・ 高額材料の預託在庫化や在庫定数を適正化

グラフ27：経常収益・経常費用（億円）

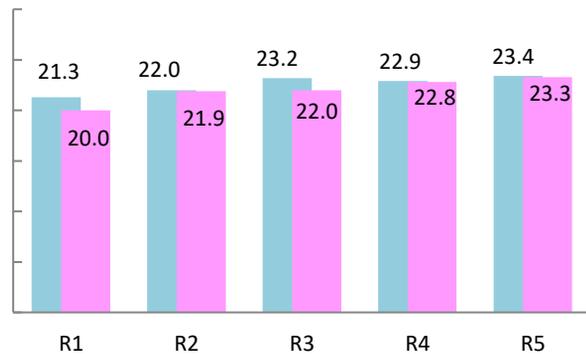


(5) 神戸アイセンター病院

◆令和5年度の主な取り組み

- ・効率的な手術室の運用等で、手術件数及び硝子体注射件数が増加し過去最多
- ・視能訓練士を増員し、検査体制を強化したこともあり、外来患者数が増加し過去最多
- ・各部門において策定した部門計画に財務の項目を設定し、部門ごとに経営改善を実施

神戸アイセンター
病院



※ 神戸アイセンター病院は、5期（H30～R4年度）連続黒字等の経営実績から自治体立優良病院として令和6年6月に表彰されました。

(6) 法人本部

常任理事会を毎月開催し、病院ごとの経営指標を報告し、情報共有と課題の抽出に取り組みました。また、年度途中で適切な執行管理ができていくかどうか、四半期ごとの決算見込みや予算編成時等の機会を通じて、各病院と法人本部に対して理事長ヒアリング、本部長ヒアリングを実施し、新たな課題への対策や適切な執行管理に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症の流行状況等を踏まえ必要な病床を確保した上で、補助制度の改正に応じて適切に財源を確保しました。

2. 経営基盤の強化

(1) 収入の確保及び費用の最適化

収益については常任理事会における月次決算の報告において、新規患者数や救急患者の受入れ状況等の各種指標を確認のうえ、単価の向上や収益の確保につなげました。

また、医薬品の購入に関しては、機構全体での値引き交渉を行うことで、約1,043百万円の薬価差益を獲得するとともに、診療材料の4病院合同価格交渉を行いました。

加えて、複写機やその他消耗品等において、スケールメリットを活かし4病院共同での入札や価格交渉を行うことで、費用の削減を図りました。

(2) 計画的な投資の実施と効果の検証

第3期中期計画の投資計画に基づき、院内でのヒアリングを実施しながら経年劣化した医療機器の更新や施設設備の改良等、計画的な投資を行いました（写真55）。



写真55
放射線治療装置（中央市民病院南館）

その他業務運営に関する重要事項

1. 西市民病院の建替え整備について

令和5年2月に策定された新西市民病院整備基本計画に基づき、新病院における運用フローや動線について検討を行うとともに、神戸市とも連携を取りながら基本設計を進めました。

◆令和5年度の主な取り組み

- ・院内ワーキンググループやサブワーキンググループを立ち上げ、新病院における運用を検討（写真56・57）
- ・間仕切り案の作成、医療機器レイアウト及び必要設備を検討



写真56 新病院整備委員会での検討の様子

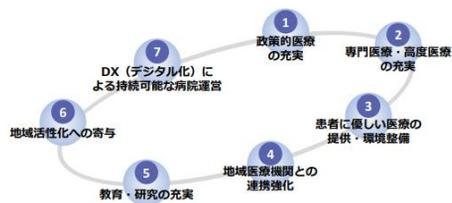


写真57
情報システム
ワーキンググループの様子

◆新病院の概要

新病院では、市街地西部の中核病院として、「まもる：市民の生命と健康を守る」、「つなぐ：地域医療と地域社会をつなぐ」、「はぐくむ：まちとひとを育む」という考え方のもと、以下の3つのコンセプトを掲げ、急性期医療の中心的役割を担うだけでなく、市街地西部において住みたくなるまちのシンボルとなるような病院を目指します。

- 救急医療、感染症・災害医療の強化
- 地域包括ケアシステムの推進
- まちづくりや地域活性化に寄与



<設置場所>

新長田駅近くの若松公園北西部の一部
(神戸市長田区)



<主な設備概要>

- 病床規模：現病院と同じ358床
- 診療科目：現診療科を維持し、放射線治療科を新設

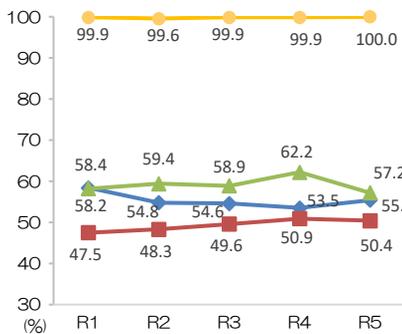


新病院に関するウェブサイト

医療機能等指標・主要経営指標の推移

凡例：中央市民病院は ◆ 西市民病院は ■ 西神戸医療センターは ▲ 神戸アイセンター病院は ● で表示

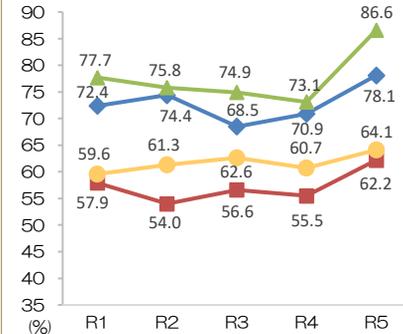
(1) クリニカルパス適用率



<令和5年度計画目標値>

中央市民病院	60.0%以上
西市民病院	50.0%以上 達成
西神戸医療センター	60.0%以上
神戸アイセンター病院	99.9%以上 達成

(2) 紹介率



<令和5年度計画目標値>

中央市民病院	69.0%以上 達成
西市民病院	55.0%以上 達成
西神戸医療センター	70.0%以上 達成

※神戸アイセンター病院は、紹介患者数により1日10.0人と目標を設定し、1日11.2人という結果だった。

(3) 逆紹介率

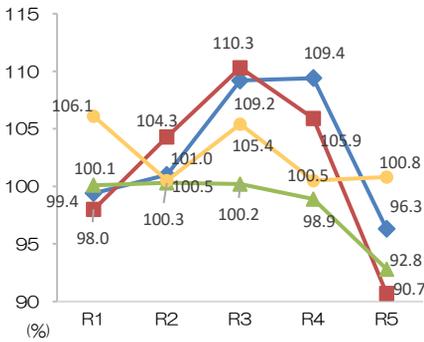


<令和5年度計画目標値>

中央市民病院	120.0%以上 達成
西市民病院	100.0%以上 達成
西神戸医療センター	78.0%以上 達成

※神戸アイセンター病院は、逆紹介患者数により1日11.0人と目標を設定し、1日16.4人という結果だった。

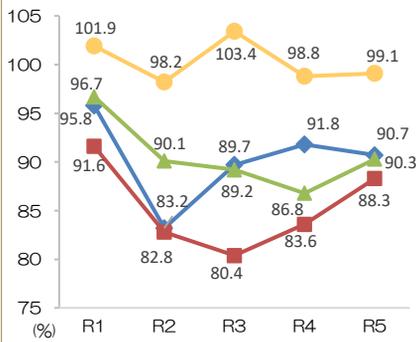
(4) 経常収支比率



<令和5年度計画目標値>

中央市民病院	96.9%
西市民病院	93.0%
西神戸医療センター	95.1%
神戸アイセンター病院	100.2% 達成

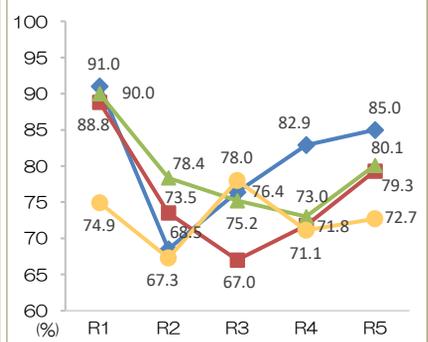
(5) 医業収支比率 ※運営費負担金を除く



<令和5年度計画目標値>

中央市民病院	86.0% 達成
西市民病院	83.4% 達成
西神戸医療センター	86.8% 達成
神戸アイセンター病院	96.4% 達成

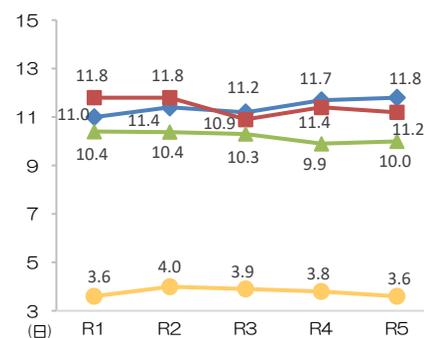
(6) 病床利用率 ※感染症病床、結核病床を除く



<令和5年度計画目標値>

中央市民病院	85.9% 達成
西市民病院	80.4% 達成
西神戸医療センター	81.7% 達成
神戸アイセンター病院	75.4% 達成

(7) 平均在院日数



<令和5年度計画目標値>

中央市民病院	11.6 以下
西市民病院	11.6 以下 達成
西神戸医療センター	9.9 以下
神戸アイセンター病院	3.9 以下 達成

※西：地域包括ケア病棟を含まない

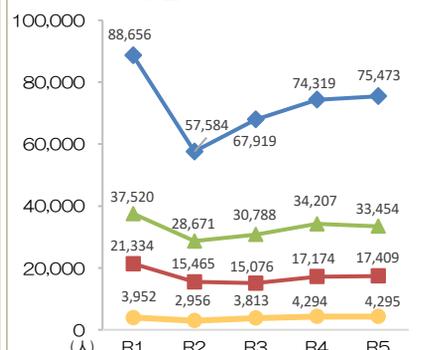
(8) 新規患者数(入院)



<令和5年度計画目標値>

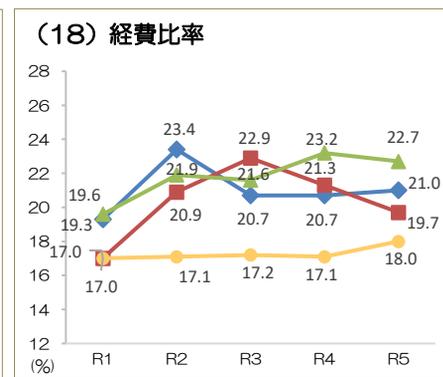
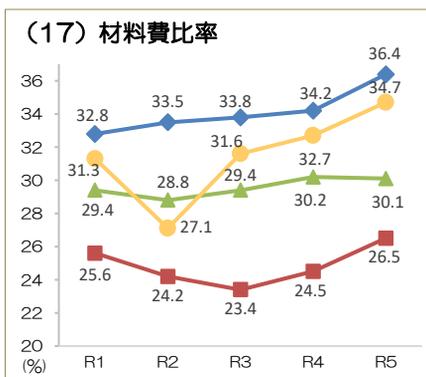
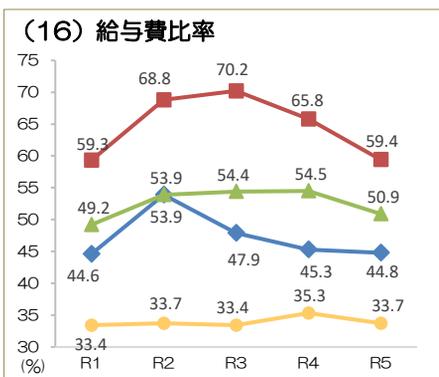
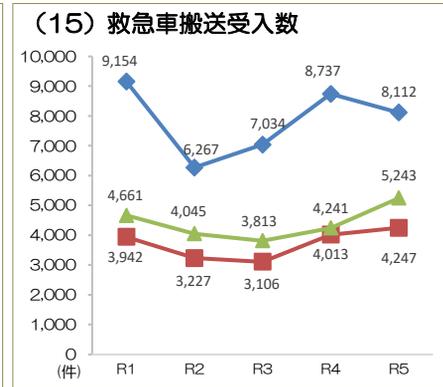
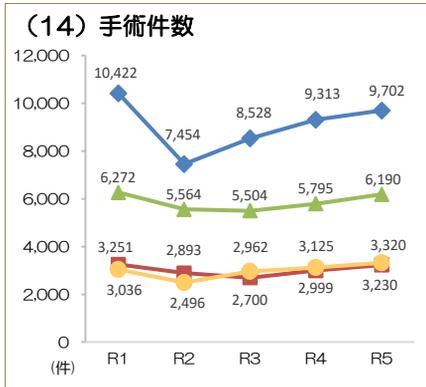
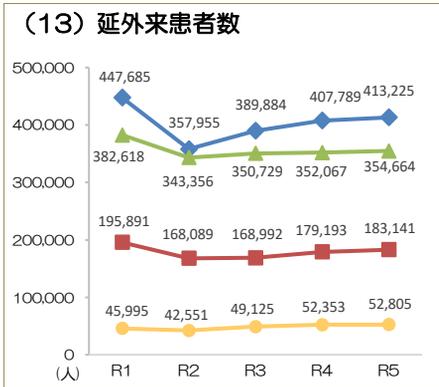
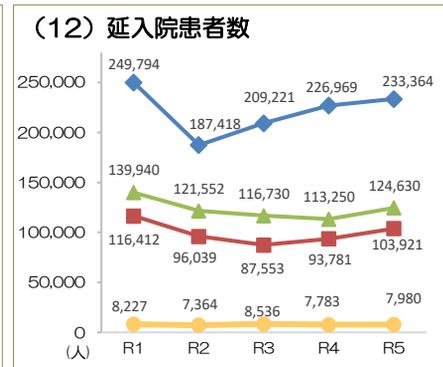
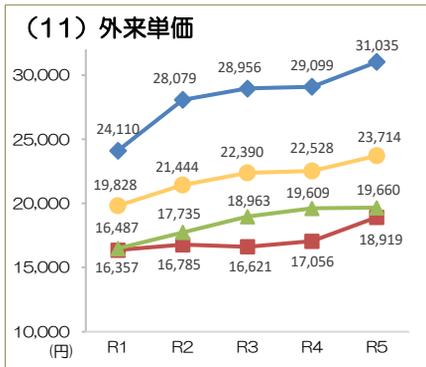
中央市民病院	20,297 以上 達成
西市民病院	9,046 以上 達成
西神戸医療センター	12,771 以上 達成
神戸アイセンター病院	2,123 以上 達成

(9) 新規患者数(外来)



<令和5年度計画目標値>

中央市民病院	73,975 以上 達成
西市民病院	18,562 以上 達成
西神戸医療センター	36,346 以上 達成
神戸アイセンター病院	4,107 以上 達成



経常損益・単年度資金収支

